

▶ 第9章

2020年の韓国における対北朝鮮認識

静岡県立大学 教授
小針 進

【ポイント】

- ▶ 2020年は、南北間の政治的関係の改善が進展しなかった。5月は韓国の脱北者団体による金正恩批判のビラ散布問題、6月に北当局による開城の南北連絡事務所爆破、9月に北に越境した韓国公務員男性への射殺事件など、韓国人の北朝鮮認識に影響を与える出来事も重なった。このため、対北朝鮮認識、南北統一への認識、文在寅政権の対北政策への認識のいずれにおいても、相対的に厳しいものとなった。
- ▶ 南北関係や米朝関係が急進展した18年と比べると、その変化は顕著である。たとえば、「北朝鮮は変化している」と18年に77.3%が感じていたが、20年は39.3%と急落し、朴槿恵政権期の水準に戻った。北を「協力」や「支援」の対象と思っていた人が激減し、「警戒」の対象とする人が上昇した。
- ▶ 各種世論調査から韓国社会の北朝鮮への「眺め」を整理すると、①大統領への影響力ある人物が北の最高指導者と認識されるようになった②南北交流では離散家族再会の評価が高く、経済協力への期待もある③金正恩への信頼度が急減した——などの傾向がうかがえる。統一の必要性や期待感は横ばい傾向で、「不可能」と考える認識も強い。状況によって認識は可変的で、世代によって差があり、当為的な回答も低くない。対北政策は国論分裂や社会分断の政策争点となっている。



注目データ

(各界のオピニオンリーダー計1000名に毎年調査、%)

	2020	2019	2018	2017	2014	2013
1位	金正恩 30.9%	トランプ 17.3%	任鍾哲 41.2%	金正淑 33.7%	金洪春 64.1%	金洪春 49.3%
2位	トランプ 24.6%	金正恩 16.4%	金正淑 11.4%	任鍾哲 33.3%	金武星 28.4%	金武星 10.8%
3位	盧武鉉 12.9%	曹国 15.2%	曹国 11.3%	李洛淵 16.9%	崔炅煥 7.6%	朴正熙 10.7%
4位	李洛淵 12.9%	盧武鉉 15.2%	李洛淵 11.3%	曹国 16.9%	李貞鉉 7.6%	黃祐呂 10.7%
5位	李海瓚 12.9%	金正淑 16.4%	金正恩 6.7%	秋美愛 16.9%	鄭烘原 7.6%	鄭烘原 10.7%
6位	金正淑 33.7%	任鍾哲 33.3%	トランプ 17.3%	張夏成 16.9%	朴志晩 7.6%	李貞鉉 10.7%
7位	任鍾哲 33.3%	李洛淵 16.9%	盧武鉉 11.3%	盧武鉉 16.9%	徐清源 7.6%	崔炅煥 10.7%
8位	盧英敏 12.9%	盧英敏 15.2%	張夏成 11.3%	洪準杓 16.9%	鄭潤会 7.6%	金ハギル 10.7%
9位	習近平 12.9%	李海瓚 15.2%	秋美愛 11.3%	金尙祚 16.9%	朴正熙 7.6%	姜昌熙 10.7%
10位	鄭世均 12.9%	楊正哲 15.2%	金東兗 11.3%	康京和 16.9%	安哲秀 7.6%	陸英修/安哲秀 10.7%

資料：『時事ジャーナル』2020年9月26日号、2014年9月2日号など